

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

10

No.752

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる 明日へつながる (PR特集)

## 地域をつくる赤い羽根共同募金 10月からスタート!

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉  
誰もが気軽に立ち寄れる“お気に入りの場”に  
～駅舎工房「モン・ファボリ」の取り組み～

P8 あなたのまちの社協ナビ  
丹波市社会福祉協議会

P9 地域を駆ける! ワーカー物語  
一人ひとりが地域の大切な「財」として  
相生市社会福祉協議会 がんきともゆき 元佐 朋亨

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション

10月から  
「共同募金運動」が  
スタートするよ!

神河町

この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。



## 私たちが赤い羽根共同募金運動を応援しています!



募金を知ったのは赤い羽根から。たすけあいの心で結ばれる。今も、これからも、大切な社会への一歩です。

女優 竹下 景子さん  
(右の写真は昭和54年度の共同募金運動ポスター)

ありがとう、の一言に救われた時がある。バイオリニストとして自信と希望を失っていた時だ。ボランティアで訪れた施設で老人に「ありがとう」と声をかけられ涙が溢れた。たった一言でひとの心が救われる事を知った。

バイオリニスト 千住 真理子さん



人の為何かの為ということ  
は自分の為にもなり、またその逆も存在する…ボランティア活動とは粹のない見事な、人と人、心と心の素晴らしい循環になっていると感じています。これからも携わる全ての皆様と心をひとつにして、地道に頑張っていきたいと思っています。赤い羽根を胸に!!

女優 杜 けあきさん

赤い羽根ひょうごのマスコットあかはねちゃんです! 共同募金を皆様に知っていただくために、大きな赤い羽根を持って兵庫県内のいろんなところでPR活動をしています。



# 「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる (PR特集) 地域をつくる赤い羽根共同募金 10月からスタート!

10月から赤い羽根共同募金運動がスタートしました。戦後から60年以上にわたり民間社会福祉事業の推進のために活用されてきた共同募金。今回はPR特集として、「ひょうごの町を良くするしくみ」としての共同募金運動についてお知らせするとともに、地域における募金・寄付の多様な広がりについて、事例を通してお伝えします。



### 地域福祉を推進する 赤い羽根共同募金運動

67回目を迎える赤い羽根共同募金運動が10月1日から始まりました。兵庫県共同募金会では、「やさしさ」が、必ずとどく。赤い羽根の運動スローガンのもと、本年は5億5897万1000円の目標を掲げ、12月末までの期間、県内各地で募金運動を実施します。

共同募金は地域福祉の推進を目的とした事業を支援するため実施され、募金が始まった昭和22年から平成24年までに兵庫県内で240億円を超える募金が集められてきました。

近年は兵庫県だけでなく全国的にも募金額は減少傾向にあります。東日本大震災の被災地への支援活動を通じて、募金・寄付に対する考え方は大きく変わったといわれています。日本ファンドレイジング協会が発行した『寄付白書2012』によると、平成23年の東日本大震災の被災者支援に対する金銭または物資による個人からの寄付額は、合

計で約5000億円に上るとされています。これは、平成22年の日本における個人の寄付総額の約4874億円を上回る額です。さらに、平成23年の震災に関する寄付以外の個人寄付は約5182億円と前年を上回っています。兵庫県でも多額の義援金等が寄付されるとともに、平成23年は共同募金の目標達成率も98%と前年比1%増加の結果となりました。

また、平成23年度は寄付税制の抜本改革により、一定の要件を満たした公益法人等への寄付金について従来の所得控除に加えて税額控除(最大で寄付額の約半額が減税が適用されること)となりました。兵庫県共同募金会も平成24年3月9日付で県の証明書が発行されました。

これからの共同募金運動にあたっては、寄付者の理解と協力を得るために、募金の使いみちや税額控除の仕組みなど、寄付者にとって必要な情報を積極的に伝えていきながら、地域福祉の推進という明確な目的に向かつての運動展開を進めていくことが大切です。

### 「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクトに 兵庫県共同募金会も賛同します!

「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクトとは…  
今回、実施をする「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクトは、多くの方々に「赤い羽根共同募金」に関心を持っていただくこと、また住民同士の支えあい活動を若い世代からも盛り上げ、安心して暮らすことのできる地域を目指すことを目的として、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社様の協力を得て実施をするものです。

～詳細は、以下のサイトをご参照ください。～

- ◆ピアプロコラボサイトアドレス  
<http://piapro.jp/static/?view=akaihane13>
- ◆北海道共同募金会特設サイトアドレス  
<http://www.akaihane-hokkaido.jp/do3ko/piapro.html>



Illustration by (Kenji)  
© Crypton Future Media, INC. www.piapro.net



地域で展開される  
募金・寄付の新たな動き

共同募金だけでなく、地域社会における募金・寄付の動向は近年大きく変化しつつあります。

東日本大震災では、従来の義援金に加えて、被災地等で活動するボランティアグループやNPOの活動を支援する「活動支援金」という募金の形態が注目を集めました。中央共同募金会が創設した「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」は、平成24年1月までに31億円の寄付が集まり、延べ1247団体への助成が行われました。現在も、仮設住宅に暮らす人同士が話すきっかけとなる交流サロンを行ったり、被災地から避難して暮らす人々を地域で暖かく受け入れたりといった活動への助成が継続して行われています。

また、前述の通り、平成23年には寄付税制の抜本改革が行われるなど、寄付に関する一連の動向や意識の高まりを指して、前掲の「寄付白書2012」では同年を「寄付元年」と

と名付けています。

このほかにも、任意の地方自治体に寄付することで、寄付した額に同じた税額控除が受けられる「ふるさと納税」の制度や、遺言により公益団体への寄付を行う「遺贈」などの新しい寄付のかたちも、近年広がりを見せつつあります。

以下では、市町社協における共同募金運動の新たな取り組みや、資金開拓の新たな道である「ファンディング」を始めとした市民活動団体、さらに社会貢献活動として福祉活動への寄付を行った企業を紹介し、地域でさまざまに展開されている募金・寄付活動の一端をお伝えします。

赤い羽根共同募金をはじめとする地域の中での募金・寄付は、町の人たちのやさしい気持ちを集める活動です。

「あなたのやさしさ」が、「あなたの声かけ」が、「あなたの行動」が、きっと、町を変えていくはじめての歩となるはず。 —もっと、もっと、良いまちになりますように。

社協における取り組み

宍粟市社会福祉協議会  
事務局長 山本 正幸さん  
地域における寄付は、どのような現状にあるのでしょうか。

宍粟市では共同募金を含め、年間6回に及ぶ募金等の活動が行われています。募金の取りまとめを依頼される自治会からは、もう少し募金の回数を減らしてほしいという要望が社協に寄せられています。これは、婦人会などの組織が解散したことで、募金活動の自治会役員への負担が増えたことによるものです。

宍粟市における主な募金活動等

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 4月   | 緑の募金(4月15日~5月14日が「全国一斉強調月間」)  |
| 5月   | 日本赤十字社社資の募集(「赤十字運動月間」)        |
| 6月   | 善意の募金(平成24年度預託額15,614,423円)   |
| 10月  | 赤い羽根共同募金(平成24年度実績額9,128,178円) |
| 12月  | 地域歳末たすけあい運動                   |
| 1~3月 | 賛助会員の募集(1口2,000円)             |

どのような工夫を行っていますか。

平成23年度より「地域福祉応援成事業」を創設し、共同募金配分金の一部を公募により地域の団体に助成する取り組みを始めました。申請のあった団体をプレゼンテーションにより審査し、平成25年度は7団体36万6000円の助成を決定し、広報紙でも報告を行いました。寄付が何に使われているのかをPRする「見える化」を図り、地域に役立つ共同募金であることをいろんな機会に知らせる必要があると考えています。また、配分を受けた団体が募金活動に参加する取り組みも始めました。

企業における取り組み①

有馬ロイヤルゴルフクラブ(神戸市)  
年間6万人以上が来場する同クラブでは、「地域社会との共生」を指して多くの社会貢献活動を行ってきた。平成23年度からは、来場者数×30円を、



有馬ロイヤルゴルフクラブの大林副社長

東日本大震災の被災者支援活動に寄付している。

担当者の声から

当初、場内に募金箱を置くことも考えましたが、お客様に募金を強制することになると思い、この形態にしました。全社を挙げて経費削減に取り組んでいる中で、30円とはいえ寄付を行うことには、経営者としての責任の大きさを感じています。使途が分かりやすいことは大切ですが、情報公開ですべてが分かるわけではありません。実際に担当者とお会いして、顔と顔の見える関係を作り、相手を信頼した上で寄付金をお渡ししたいと考えています。社員が頑張った集めた募金を、間違ったところへは渡せないという思いがあります。

企業における取り組み②

日本イーライリリー株式会社(神戸市)  
世界的な製薬企業である同社では、東日本大震災の被災地を支援するチャリティーウォークイベントを実施している。社員が県内をチームで歩いた距離に応じて会社が寄付を行うものだ(2kmにつき1000円)。この活動により、平成24年度はひまわりボランティアグループの被災地支援活動に対して、170万円の寄付を行っている。

担当者の声から

どこに寄付を行うべきか、行政に相談したところ、多様な活動を支援しているプラザを紹介されました。過去の震災経験に根差した熱意を感じ、ここなら社員の思いを受け止め活用してもらえそうと思いました。寄付先を決める際は、ホームページなどで公開される活動の実績を検討材料にしています。忙しい中で成果を発信するのは大変だと思いますが、活動が目に見えることが何よりも大切です。



社員の連帯感も高めたチャリティーウォーク

これからの展望をお聞かせください。

社会保障制度が改革されつつあるように、共同募金運動も新しい時代のニーズに合うよう改革していく必要があります。災害が多発する中で、市町村単位でその一部を災害時のボランティア活動に使用できる仕組みを構築するの1つです。いつも指摘されているように、募金の使途が住民によく分かる制度に変えていくべきです。地域福祉を推進していくために、住民の心からの善意を大切に活用するために、社協として正面から本気で向き合わなければならない時期に来ています。

市民活動団体における取り組み

公益財団法人神戸YMCA(神戸市)

青少年等のボランティア活動などを推進している同法人では、各部門で分散して実施していた募金活動をより効果的に展開するため、今年度よりプロジェクトを組んで米国のYMCAが実践しているファンディングのチームを立ち上げた。その成果の第1段として実施したのが、香川県小豆島の余島に福島県の小学生を招待して行ったキャンプ

だ。事業に必要な目標額(400万円)を設定し、振込用紙付きのパンフレットを作成して寄付を募集した。ボランティアとして100件もの寄付を集めた方などの働きもあり、結果的に3カ月で150件以上の寄付が集まり、目標を達成した。

担当者の声から

今回の募金に際しては、寄付金の使途を明確に示したことで、寄付者も意欲を持って寄付ができたのだと思います。また前述のように、スタッフだけでなく、賛同したボランティアの皆さんと一緒に寄付を呼びかけてくれました。その中には過去のキャンプに参加した人もいます。

神戸YMCAという団体は、寄付者と寄付による支援を受ける人との間のコーディネートに過ぎません。キャンプへの参加者の声など、寄付による活動の成果を寄付者やボランティアの間で共有することで、活動に対する共感が生まれ、支え合いの活動の輪が広がっていくのだと思います。



笑顔があふれるキャンプ活動

加西市南部に位置する北条鉄道の法華口駅。ここに、障害者支援施設「希望の郷」を運営する社会福祉法人ゆたか会が「駅舎工房」(以下、「工房」)を開設しているよ。これまで数多くの新聞や雑誌等で取り上げられ、その評判も瞬く間に広がったそうだよ。どんな取り組みなのかちょっとのぞいてみよう。



## みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。



駅舎の一角に生まれた  
就労支援の場

**就労支援の場を地域に**  
工房は平成24年11月に開設され、店名は「モン・ファボリ」。フランス語で「私のお気に入り」を意味し、「地域住民の皆さんのお気に入り」の場所になつてほしいという願いが込められている。施設利用者一人を含む4人のスタッフで運営し、地域の食材を活用した米粉パンや法人自家製の焼き菓子の販売の他、駅の待合スペースを活用した喫茶スペースもある。開設のきっかけは、利用者の自立生活に向けた就労支援の場を地域につくることだった。工房の認知も徐々に広がりを見せ、今や近隣市町村からも足を運ぶ姿が見られるそうだ。スタッフの一人から

## 誰もが気軽に立ち寄れる“お気に入りの場”に

～駅舎工房「モン・ファボリ」の取り組み～

は、「駅の利用者や地域住民から感謝の声をかけられると、非常にやりがいを感じる」といった声が寄せられている。働くことに対する充実感を感じている様子が見える。

**施設利用者として住民が語り合える場に**  
駅周辺地域は高齢者が多く住んでおり、日常生活の足として鉄道を利用する傍ら、身近な語り合いの場として工房は利用されている。高齢化が著しいことから、住民間ではまちの将来を案ずる声が多く、工房に対しても「地域の活性化に貢献してほしい」といった期待が寄せられている。希望の郷職員で店長の坂真司さんは、「期待を寄せられるのは地域の一員として認められている証と感じている。地域の社会資源として、その期待に応えられる工房を目指していきたい」と話す。

「利用者の就労支援」と「地域住民の日常交流の場」の二つの側面を併せ持つ工房。今後の目標はそれらの融合である。「住民が気軽に集い、そこで働く利用者が自然とその輪に入り語り合う。それが日常の光景となる」ことが目標です」と坂さんは工房の将来像を描いている。今後の取り組みに注目したい。

### 取材を終えて

工房を運営しながら、施設職員がボランティア駅長として地域に貢献しています。北条鉄道法華口駅に欠かせない存在となった工房。“みんなのお気に入りの場”になれる日もそう遠くないかもしれません。

駅舎工房「モン・ファボリ」  
(社会福祉法人ゆたか会)  
加西市東笠原町字沖 ☎0790-48-2521  
営業時間:10:00~17:00(定休日:月曜)



喫茶スペースで住民と交流する利用者の皆さん

## TOPICS

### 推進協議会の総会を開催しました!

8月30日、兵庫県公館にて全県キャンペーン推進協議会の総会・講演会を開催しました。

第1部では、平成25年度の事業計画・予算などを報告。講演会では、「地上に平和を、人々に笑顔を」をスローガンに幅広く活動されている朝来市出身の落語家・笑福亭鶴笑さんをお迎えしました。イラクでの活動風景のビデオ上映のほか、南京玉すだれ、パペット落語を通じて「つながり」の大切さが伝えられ、会場は温かい笑いに包まれました。



また、第2部では、「兵庫県地域安心見守りネットワーク」応援協定(P11参照)の報告会として、生活協同組合コープこうべによる実践報告が行われ、キャンペーンの次の一步につながる有意義な場となりました。

### 協賛金について(お礼)

9月9日、株式会社NTTドコモ関西支社とNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドから、昨年度に続き50万円の協賛金をいただきました。当日は、推進協議会代表幹事の武田政義県社協会長から同支社神戸支店長の松谷 正輝氏に感謝楯が贈呈されました。ここにあらためてお礼を申し上げます。



## メッセージ

### 人は一人では生きられない

お盆に、久しぶりに帰って来た子ども達の家族が揃い、食後に女性達の楽しいおしゃべり会が始まった。私はここぞとばかりに、「無縁社会をどう思うか」と質問した。

「プライバシーや個人情報等の縛りがあるので、いくら手を差し伸べても拒絶されれば深入りできない」「今は皆がわがままなので人の事はほっといてくれと言う。お節介役はしたくない」「私も家計を助けないと子どもも良い学校に進学させられない。ボランティアをしている余裕はない、家族の絆が大切だ」などなど。「高齢者は生活環境が大きく変わっている事を認識していない、若者から敬遠されないようにしないから無縁になるのだ」と厳しい声もあった。

続いて「裕喜はどう思う」と曾孫に問いかけた。「僕はいつもお母さんに、『一人では生きられないのよ、

牛や豚や沢山の命をいただいて生かされている、だから感謝の気持ちを忘れては駄目よ』と言われているからわかっているけど、友達は皆知らないよ。学校で子どもの時から勉強したら、大人になったら無縁社会なんてならないよ」と答えてくれた。私は思わず「賢い」と曾孫の頭を撫ぜた。

これは私の家族のほんの一時の会話かもしれないが、今後の活動に大きなキーワードが隠されているように思う。消費者団体では特別なテーマとして取り上げてはいないが、会員は「ストップ・ザ・無縁社会」の意義はよく認識しており、日頃の消費者活動に組み入れ、取り組んでいる。

兵庫県消費者団体連絡協議会  
会長 幡井 政子



このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

ひとり暮らしのAさんは、長年ボランティア活動を続けてこられた方です。そんなAさんが最近、活動日や活動時間を間違えるようになってき

印象に残るエピソードは？

以前、施設で勤務していた時は、利用者の入所面接を担当していました。施設に入所したい人、家で過ごしたいが家族のことを思ってしづしづ入所する人、家族に買い物に行くこと連れてこれら面接を受ける人などさまざまでした。私は、施設職員の立場から施設入所の相談に応じましたが、結果的に在宅で生活したいご本人までも入所していただくよう説得していました。在宅で生活したいと願っている人に、一日でも長く住み慣れた場所で安心した生活が送れるような仕事をしたいと思うことが、私の原点です。

あなたの原点は？

地域を駆ける！  
ワーカー物語

一人ひとりが地域の大切な「財」として

傾聴ボランティアによる在宅高齢者への訪問活動です。相生市の高齢化率は30%を超え、市内には1,500人以上の一人暮らし高齢者が生活されています。傾聴ボランティアの活動は、制度

力を入れたい活動は？

が、認知症であってもボランティア活動を続けたいという希望があります。認知症であっても、地域に自分の役割があり、生きがいを持っていきいきと暮らせるよう、まだまだ取り組むことがあると感じています。



災害に備えた助け合い活動にも力を入れる

内サービスだけでは担いきれない安否確認の手段として期待されていますが、それ以上に高齢者の方がこれまでで培ってきた苦労話や、地域の歴史など、地域の先輩からさまざまなことが伝承されることに大変意義を感じています。これまで相生市の発展のために尽くされてきた人生の先輩は、皆さん多種多様なノウハウを持たれています。傾聴ボランティアは、ボランティアが聞き手となり活動を提供するだけでなく、双方向の学びや癒しがあり、その魅力は奥が深いものであると思えます。

大切にしていることは？

相生市で生活されている地域住民一人ひとりは、さまざまな知識や技術を兼ね備えた相生市の大切な財産で

## あなたのまちの社協ナビ

市町社協の取り組んでいるさまざまな活動を紹介します。

活動を  
もっと詳しく  
知りたい方は

丹波市社会福祉協議会  
☎0795-82-4631

丹波市社協

検索



## 歩いていける地域で話し合っつくる福祉

「歩いていける地域で、住民が話し合っつくる福祉のまちづくりを」と、社協が今年度から始めたのが「地域福祉推進支援事業(以下、支援事業)」だ。これまで2年間、市内25小学校区の自治協議会・自治振興会のうち6カ所をモデル地区に指定して活動費を助成し、今年度から本格実施に踏み切った。

支援事業の特徴は、単なる助成ではなく、自治協議会・自治振興会での福祉部会づくりとセットにしたこと。これにより、地域で住民が話し合っつ継続的に福祉活動に取り組むことができる。また、社協が活動を決めるのではなく、住民が話し合っつ地域に必要な取り組みを決めている。職員はせっせと足を運び、住民による福祉のまちづくりを支援している。

### 活動の中で

「住民同士、うだうだ言いながら集まるのが地域づくりの第一!」こう話すのは美和地区自治振興会の会長で福祉部会長でもある西安さん。9自治会で構成され約1,800人が暮らす美和地区は、2年前に支援事業のモデル地区となった。自治会の副会長が福祉委員を兼務することで、福祉部会の活動を自治会内にも浸透させることができた。

福祉部会では、自治会ごとに開催されている「いきいきサロン」の全体交流会「いきいき美和の会」をはじめ、介護者の

地域ボランティアも一緒に楽しむ「いきいき美和の会」



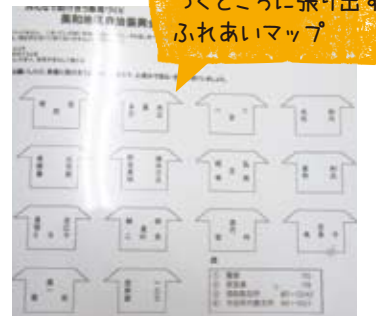
集いや介護教室などの交流・学習活動に取り組んでいる。

また、「向こう三軒両隣」の助け合いを進めようとするのが、「自治会ふれあいマップ」づくり

だ。自治会ごとに見守りグループをつくり、全世帯が日頃から、声を掛け合うために作成した。災害時の避難に生かすなど、福祉活動がほかの地域活動に波及効果をもたらしつつあるという。

今後の夢も膨らむ。統合する保育園跡地を活用し、「たたみにコタツを置いて高齢者や子どもが気軽に来られる場所をつくりたい」「悪徳商法に引っかかるよう、地域内でちょっとした困りごとに対応できる相談窓口もつくりたい」と会長は話す。「美し、和みの里」を合言葉に、地域の安心を地域でつくる活動が進んでいる。

自宅内の目につくところに張り出すふれあいマップ



### 活動のポイント 住民が集って話し合う場をつくることからまちづくりは始まる

#### 取材を終えて

市社協職員の言葉。「社協が事業を決めるのではなく、住民が事業を決めると思うと、社協の役割が見えました。また、「住民意識や地域の土壌に合わせる社協は地域に関わり続けるんです」とも。地域への誇りや愛情、地域で暮らす安心を絶やさぬ覚悟を、住民と社協職員双方から感じました。

#### 会長から

丹波市では、合併時と比べると人口が約5,000人減少し、一部の地域では人口流出に伴う少子・高齢化に拍車がかかっています。一人暮らし世帯、高齢者世帯の増加、少子化に伴う高齢化などさまざまな福祉課題が地域の中には存在しています。丹波市社協では、こうした地域にある福祉課題について、地域の人や物などの資源を住民自らが活用し、解決できるよう「地域福祉推進支援事業」を地域とともに進めています。この事業を通して、「住み慣れた地域で暮らし続けられて良かった」といわれる仕組みづくりを進めていきます。



丹波市社会福祉協議会 会長 足立 九一郎

### 相生市社会福祉協議会 がん さ と も ゆ き 元佐 朋亨さん

#### Personal History

- 23歳 相生市社協に入局(ボランティアコーディネーター)
- 31歳 傾聴ボランティアグループの立ち上げに携わる
- 32歳 災害救援マニュアル策定に携わる
- 33歳 地域福祉推進計画策定に携わる



す。助け合いの活動を広めるため、支援を必要とされる人が支援する側にもなるような視点を大切にしています。

#### 取材を終えて

高齢になっても障害があっても、「地域で暮らし続けたい」という住民の思いに寄り添う元佐さん。誰もが地域の居場所と自分の役割を感じられるような地域づくりに向けた熱意が伝わってきました。

## 兵庫県社会福祉政策に対する 提言活動を開始

兵庫県社会福祉協議会社会福祉政策委員会(以下、「政策委」)は、このたび、「平成26年度兵庫県社会福祉政策への提言」(以下、「提言書」)を取りまとめた。今回の提言書は、社会保障と税の一体改革や生活困窮者支援策などをめぐる国の施策動向をにらみながら、県社協構成団体である県内の市町社協、施設種別協議会、福祉・医療等関係団体、当事者団体ら幅広い団体から寄せられた声をもとにまとめたもの。また、今回の提言書は、会員相互に関連する横断的な課題であり、県行政と歩調を合わせて国等へ提言する必要がある課題を5つの重点提言としてとりまとめたほか、社協、施設種別協議会、社会福祉団体等からの提言として全96項目にも及び幅広い分野を網羅するものとなった。政策委では、この提言書をもとに、以下のとおり提言活動を展開した。

### 兵庫県への政策提言

8月9日、政策委は県庁を訪問

し、井戸知事と会談した。会談では、政策委正副委員長より提言を行い、県内の限界集落における移動手段の確保や福祉サービス利用援助事業の現状など、幅広い分野について意見交換を行った。

また、同日、県当局に対する説明会を、健康福祉部長をはじめとする関連部局幹部が一堂に会する中で開催した。各政策委員から提言項目について説明がなされ、今後予定されている次年度県施策の検討に際して、提言書で提起した内容の積極的な活用を要望した。

### 兵庫県議会・市町への政策提言

政策委は、8月16日、県議会を訪問し、県議会議長、同副議長と会談したのを皮切りに、各会派の議員団を訪問し、代表者に対して提言活動を行うとともに、全県議会議員に対して、提言書を配布した。

さらに、市町への政策提言活動もあわせて実施し、県市長会、県町村会、県市議会議長会、県町議会議長会を訪問し、提言活動を行った。

## 台風18号災害に対する 支援活動を実施!

9月15〜16日に各地で大雨をもたらした台風18号により、兵庫県でも行方不明者1名、床上浸水29棟、床下浸水126棟(9月24日現在)などの被害があった。県内では災害ボランティアセンターの設置に至った市町はなかったが、京都府・滋賀県の各地で同センターが設置され、復旧活動が行われた。

本会では、近畿ブロック府県指定都市社協間の相互支援協定に基づき、幹事社協として、各地の情報収集発信を行ったほか、9月19日にはひょうごボラ



総勢45人が活動したプラザのボランティアバス

うごボラ、ボランティアプラザ、り福知山市へのボランティアバスを運搬し、家屋内の土砂等の撤去作業を行った。また、県内の市町社協がコーディネートした多くのボランティアバスが運行された。

## 市町域での 見守り活動を応援!

孤立死や悪徳商法被害などが社会問題となる中で、要援護世帯への見守り活動や緊急事態への早期対応が課題となっている。

このため兵庫県では、各家庭を業務訪問する事業者と「地域見守りネットワーク応援協定」を締結し、市町が取り組む見守り活動を支援することとなった。

8月28日に本協定の締結式が県公館で開催され、県とともに県社協・県民生委員児童委員連合会と、ガス・電気・新聞配達などのライフラインに関する24の事業者による協定が締結された。



官民一体となって見守り活動のさらなる推進を!

県内の各市町では、すでに見守りネットワークづくりが進められているが、本協定の締結を機に、ライフライン事業者との一層の連携による見守り活動の輪が広がる事が期待される。

## 今後の展開

今後、政策委では、これらの提言活動を皮切りに、県事務担当者レベルでの意見交換会や勉強会などを行っていくと同時に、県内各市長、町長、市議会議長、町議会議長へ提言書を配布する予定にしている。今秋から、国において政府が推し進める成長戦略の具体化に向けた次年度予算編成作業が本格化するのにあわせ、兵庫県では、第2次行財政構

造改革推進方策(第2次行革プラン)3年目にあたっての総点検が進められていく。変化が激しく、将来見通しが予測しにくい今、幅広い関係者の声を集め、届けることのできる政策としての強みを生かし、兵庫県および各市町の社会福祉政策のさらなる発展のため、積極的に活動を展開していく。

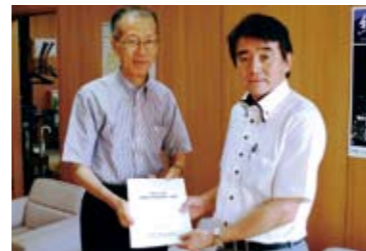
※提言書の項目は、本会ホームページ(<http://www.hyogo-wel.or.jp/>)にて掲載いたします。



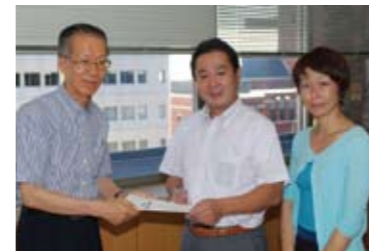
井戸敏三県知事へ提出



石堂則本県議会議長、加田裕之同副議長へ提出



自由民主党議員団を訪問し、黒川政務調査会長へ提出



民主党・県民連合議員団を訪問し、石井政務調査会長へ提出



公明党・県民会議員団を訪問し、合田幹事長へ提出



日本共産党兵庫県議員団を訪問し、ねりき団長へ提出

## みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

### 一般社団法人 兵庫県介護支援専門員協会

本会は平成13年4月に任意団体として活動を始め、平成18年3月に特定非営利活動法人として発足、平成23年4月1日からは一般社団法人として活動を行っている介護支援専門員(ケアマネジャー)の職能団体です。また、「一般社団法人日本介護支援専門員協会」の兵庫県支部としての役割も担っております。当協会では介護支援専門員が相互に連携し、研修や調査・研究等の活動を通じて専門性の向上に努め、情報交換や相談に関する事業、地域支部のネットワークを形成することにより、より細やかな活動支援を行っています。そして公平・中立な立場で介護支援業務を遂行する中で、社会への提言活動や介護保険制度



および福祉施策の広報を行うことにより、県民の皆さんの福祉、保健、医療の向上に寄与することを目的に活動しております。

こんな取り組みをしています

#### 県民フォーラムを明石で開催!!

平成25年10月5日に県民フォーラムを明石市立産業交流センターで開催することとなりました。今年度は、NHKスペシャルで話題の「おもかげ復元師」笹原留似子氏による「笑顔のメッセージ〜おもかげ復元師が見たつながる命〜」という講演会です。東日本大震災でのボランティアとして被災地に入り、生後10日の赤ちゃんから90歳を超える高齢者まで約300人を5カ月以上かけて見送るとともに、遺族へのグリーフケアを行った体験を通して生きること、支えることの大切さについての講演です。

**連絡先** 一般社団法人 兵庫県介護支援専門員協会  
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2-1-1兵庫県福祉センター 5階  
☎078-221-4102 FAX078-221-4122  
URL <http://www.hyogo-caremanet.com/>

アピールしたい活動の  
情報をお寄せください。

**問い合わせ先**  
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail [info@hyogo-wel.or.jp](mailto:info@hyogo-wel.or.jp)

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

キリン福祉財団

平成26年度キリン・子育て公募助成

地域に根付く小さな福祉活動に助成します。

**対象事業** 「地域」「子育て」「ボランティア」の3つのキーワードに合致する、地域での子育てに関わるボランティア活動を目的とする民間団体(4人以上のメンバーが中心となって活動する団体・グループであれば、活動の年数、法人格の有無は問わない)

**助成金額** 1件(1団体)上限30万円(総額3,500万円)

**締切り** 平成25年11月10日(日)消印有効

☎公益財団法人 キリン福祉財団  
TEL03-6837-7013

**URL** <http://www.kirinholdings.co.jp/foundation/>

平成26年度年賀寄附金配分

総務大臣の認可を経て、法律で定められた10の分野の事業を行う全国各地の社会福祉施設をはじめ、多くの団体に配分します。

**対象団体** 【一般枠】「お年玉付郵便葉書等に関する法律」に定められた10の事業を行う社会福祉法人、更生保護法人、公益社団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人【特別枠】営利を目的としない法人

**配分事業分野** 【一般枠】活動・一般プログラム、活動・チャレンジプログラム、施設改修・機器購入、車両購入【特別枠】東日本大震災の被災者救助・予防(復興)

**助成金額** 1件あたり500万円(上限)※活動・チャレンジプログラムのみ50万円

**締切り** 平成25年11月15日(金)消印有効

☎日本郵便株式会社 総務部 環境・社会貢献室 TEL03-3504-4401

**URL** <http://www.post.japanpost.jp/kifu/>

募集

第2回エクセレントNPO大賞

望ましい非営利組織としての「エクセレントNPO」の評価基準に基づき、優れた団体を表彰します。

**応募資格** 国内外における社会貢献を目的とした市民による日本国内のNPOやその他の非営利組織(法人格の有無は問わない)

**賞** エクセレントNPO大賞、市民賞、課題解決力賞、組織力賞(各賞金50万円)

**締切り** 平成25年10月16日(水)消印有効

☎エクセレントNPO大賞審査委員会事務局  
TEL03-3548-0511

**URL** <https://www.mainichi-ks.co.jp/form/e-npo/>

研修・イベント

アイフェスタ2013 in 神戸  
第11回視覚障害者のための  
総合福祉機器展

福祉機器や誰でも使いやすいユニバーサルデザインのグッズなどを展示。「眼科医による無料相談コーナー」「年金相談コーナー」「イキイキお化粧講座」を開催します(要申し込み)。

**日時** 平成25年10月20日(日)10:30~15:30

**会場** 神戸市立六甲道勤労市民センター

5階各会議室および4階料理室

**入場費** 無料

☎JRPS兵庫支部

TEL090-3289-1471

兵庫県老人福祉事業協会  
老人福祉施設就職フェア

各施設の職員が現場を紹介、説明するとともに、介護スタッフの負担軽減や、腰痛予防のために開発されている介護ロボットなどを展示します。

**日時** 平成25年11月16日(土)13:30~16:30

**場所** ニチイ学館体育館等(神戸市中央区)

**対象** 福祉・介護の仕事に関心のある生徒・学生、福祉・介護施設への就職を希望される方

**参加費** 無料(座談会の参加のみ要申し込み)

**内容** 面談ブース、座談会「現場からの発信!福祉・介護の現場を知ってもらおう!」など

☎一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会

TEL078-291-6822

**URL** <http://www.hyogo-kenroukyo.jp/>

福祉の就職説明会  
Autumn in HYOGO

福祉現場への就職を希望する学生や求職者を対象に、社会福祉施設等と求職者の合同就職説明会を県内3カ所で開催します。

【明石会場】

平成25年10月24日(木)13:00~16:00

明石市立産業交流センター

【姫路会場】

平成25年10月31日(木)13:00~16:00

イーグレひめじ

【尼崎会場】

平成25年11月6日(水)12:30~15:30

尼崎市総合文化センター

**対象** 学生・一般求職者 **参加費** 無料

☎兵庫県社会福祉協議会 福祉人材センター

TEL078-271-3881

**URL** <http://www.hyogo-wel.or.jp>

犯罪被害や交通事故に遭われた方へ  
ひとりで悩んでいませんか?

NPO法人ひょうご被害者支援センターでは、犯罪被害者ご家族の方などからの「相談」や付き添いなどの「直接支援」業務を行っています。

相談内容:犯罪被害後の日常生活や立ち直りに関する相談、専門の弁護士や臨床心理士の紹介など  
まずはお電話でご相談ください。(専門的な研修を受けた相談員が対応します)

**TEL078-367-7833**※毎週火・水・金・土曜日10:00~16:00(祝祭日を除く)

行事予定

- 10月3・4日 全国救護施設研究協議大会  
◆神戸ポートピアホテル
- 7・8日 生活保護中堅ケースワーカー研修  
◆県社会福祉研修所
- 13日 第16回介護支援専門員実務研修  
受講試験◆神戸大学ほか
- 16日 チーム・マネジメントリーダー研修B  
コース(全4回)◆県社会福祉研修所
- 17~18日 全国地域包括・在宅介護支援セン  
ター研究大会◆なら100年会館  
大ホール
- 18日 県民児童 合祀祭◆明石公園  
兵庫県経営協第227回理事会  
10月例会◆県農業共済会館
- 24日 福祉の就職説明会 AUTUMN  
in HYOGO(明石会場)◆明石市  
立産業交流センター
- 25日 第3回県内社協事務局長会議◆県  
福祉センター  
新任職員OJT担当者研修(実践編)  
(全2回)◆県社会福祉研修所
- 28日 介護支援専門員専門研修課程II・更  
新研修A(後期)◆県社会福祉研  
修所ほか
- 31日 福祉の就職説明会 AUTUMN  
in HYOGO(姫路会場)◆イーグレ  
ひめじ  
第3回社協ワーカー実践研究会議  
◆県福祉センター
- 11月6日 福祉の就職説明会 AUTUMN  
in HYOGO(尼崎会場)◆あましん  
アルカイクホールオクト

現状の制作物を一新したい  
新しい情報を伝えたい  
そんなとき、ご相談ください。



カタログ、パンフレット、情報誌、広告などの企画・制作

神戸市中央区海岸通8番 神港ビルディング5F  
TEL078-331-5255 FAX078-331-7800  
<http://www.idee-kobe.co.jp>

株式会社 イディー

イディー 神戸 検索



Advertising, Editorial & Web Design

「兵庫県福祉手帳2014」  
予約注文受け付け中!

兵庫県福祉手帳<2014年度版>が  
12月上旬発売予定です。カレンダー  
のほか、県内の福祉関係機関一覧を  
掲載しており、福祉関係者必携!

※民間社会福祉事業職員互助会の加入者  
には互助会より配布されますのでご留意  
ください。

【サイズ】ヨコ9cm×タテ15cm 【価格】945円(税込)

申し込み・問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 TEL078-242-4633

社会福祉関係資料

兵庫県福祉手帳

2014